

## 令和五年度入学式式辞

この地域も、数か月前は久しぶりの銀世界となりました。それが泡沫のように、梅の花や菜の花が咲き誇り、校庭に沿って流れる国安川ほとりの桜も、すでに満開の時期を通り過ぎ、本日は春雨となり、自然が生み出す色の移ろいに新鮮な驚きを感じています。春たけなわの躍動感あふれる今日の佳き日に、P T A会長本田雅也様、同窓会長板倉定夫様はじめ、御来賓の皆様、御臨席と保護者の皆様の御列席を賜り、令和5年度愛媛県立吉田高等学校入学式を執り行うことができますことは、新入生はもちろん本校教職員一同にとってもこの上ない喜びであり、心より感謝を申し述べます。

ただいま、入学を許可いたしました百六名の皆さん、御入学おめでとうございます。

本校は、大正六年に山下亀三郎氏によって設立された私立山下実科高等女学校と大正十二年に村井保固氏、清家吉次郎氏、山下亀三郎氏によって設立された吉田町立吉田中学校が前身となっており、創立百六年目を迎える伝統校です。歴史と文化の薫りに包まれながら学んだ同窓生は二万二千九百十五名に上り、各界で活躍されています。この恵まれた環境の中でこれから始まる新しい高校生活に向けて皆さんへのお願いを二つ伝えさせていただきます。

一つは、新しい出逢いをこれからの人生の糧としてほしいということです。

本校の前身の吉田中学校第6期生に道上伯という方がおられました。世界的な柔道の指導者として有名な方で、昨年は生誕百十年の記念の催しが八幡浜市で開催されておりました。一九六四年の東京オリンピックの柔道競技無差別級で、日本人を破り優勝したオランダ人のアントン・ヘーシンク選手を育てたのが道上伯氏です。道上氏は、この吉田で柔道部の顧問の赤松徳明先生と出逢い、柔道家の道に進み、世界的な指導者になるわけです。よい出逢いは、更により出逢いを引き寄せ、すばらしい成長をもたらします。先生や友達、まだ見ぬだれかとの出逢いの中に人生を豊かにしてくれる出逢いが必ずあります。

もう一つは、今生きていることを一番大切にしてほしいということです。静岡県に萩田大貴という私の甥がおりました。本来ならばこの春高校を卒業予定でした。野球の大好きだった彼は、野球部に入部しましたが、数日練習したのみですぐに体の不調を訴え入院をしました。症例としては、世界的に珍しく、治療も難しいがんで高校一年生の夏を病院のベッドで過ごし、その年の9月にはこの世を去りました。最後の夏の大会で仲間の選手は、ベンチに大貴さんの遺影を置き、ともに戦った姿が、地元テレビ局のニュースでも紹介されました。粋な計らいで、先月母親が校長室に招かれ、卒業証書が手渡されました。

「本校において友達とともに学び励み生きたことを証します」

大貴さんの闘病中の願いはただひとつ、「友達と毎日楽しい高校生活を送りたい」でした。

本校で教鞭をとられたこともあり、校歌の作詞者でもある詩人坂村真民氏の「今」という詩があります。

「大切なのは かつてでもなく これからでもない 一呼吸 一呼吸の 今である」

高校時代は、かけがえのない時期とよく言われます。それは、何気ないことで当たり前のように思っていることを一番大切にし、一瞬一瞬の今を二度と戻らないという覚悟で生きるからこそ振り返った時、言えることなのです。

これからはじまる吉田高校での3年間、共に学び、共に語り合い、共に励み、二度と来ないかけがえのない日々を謳歌していただきたいと思っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。

お子様が一日一日を大切にし、今という時を一步一步踏みしめ、高校生活を通して前進することを祈念して、式辞といたします。

令和五年四月七日

愛媛県立吉田高等学校

校長 村井 浩昭